

社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会都市交通・市街地整備小委員会

第一回現地視察概要（金沢市・富山市）

- 視察先
金沢市及び富山市
- 視察日
平成18年8月17日（木）～8月18日（金）
- 参加委員
黒川委員長、上村委員、小林委員
根本委員、森委員

※黒川委員長は金沢市のみ・森委員は富山市のみ参加

1. 行程

■8月17日(金沢市)

- ①金沢駅前の高層ホテルから市街地を俯瞰
- ②東口駅前広場から金沢ふらっとバス(コミュニティバス)に乗車
- ③金沢市よりまちづくりの概要説明
- ④中心市街地視察(都心軸、トランジットモール、街なか住宅、再開発地区、せせらぎ通り、21世紀美術館、歴史的まちなみ地区等)
- ⑤金沢市長との意見交換

■8月18日(富山市)

- ①富山駅前の高層ビルから市街地を俯瞰
- ②富山市よりまちづくりの概要説明
- ③富山ライトレール乗車～終点の岩瀬地区で歴史的まちなみ等視察
- ④中心市街地視察(ごま塩状の駐車場、総曲輪再開発地区、路面電車環状線化計画地区等)
- ⑤富山市長(森委員)、鉄道事業者(富山地方鉄道株)、岩瀬地区まちづくり関係者との意見交換

2. 金沢市視察

■まちづくりの特徴

「保全」と「開発」の両立を目指して、それぞれの目的を実現する区域を明確に区分（「保全」は歴史的市街地等、「開発」は都心軸に集中）
公共交通と歩けるまちづくり、街なか居住への積極的取り組み。

①条例によるまちづくりにより都市構造を誘導（以下は条例の例）

- ・「景観条例」による保全と開発の区域区分、景観基準や届け出制度
- ・「商業環境形成まちづくり条例」による大型店の郊外立地規制
- ・「駐車場適正配置条例」による無秩序な駐車場立地規制、P&R推進

②まちなか都心軸の形成

- ・軸状の再開発地区で集中的に高度利用を実現
- ・駅前広場、都心にぎわい回廊（アート）等の質の高い都市空間形成
- ・美術館、インキュベートオフィス等の文化、交流、ビジネス機能配置

③まちなか定住の取り組み

- ・街なか住宅への助成制度（ディベロッパーとユーザーの両方）

④公共交通と歩けるまちづくりの取り組み

- ・金沢ふらっとバス（3ルート、一律100円の運賃）
- ・河川・せせらぎ、歴史的財産を活かした歩ける道筋整備

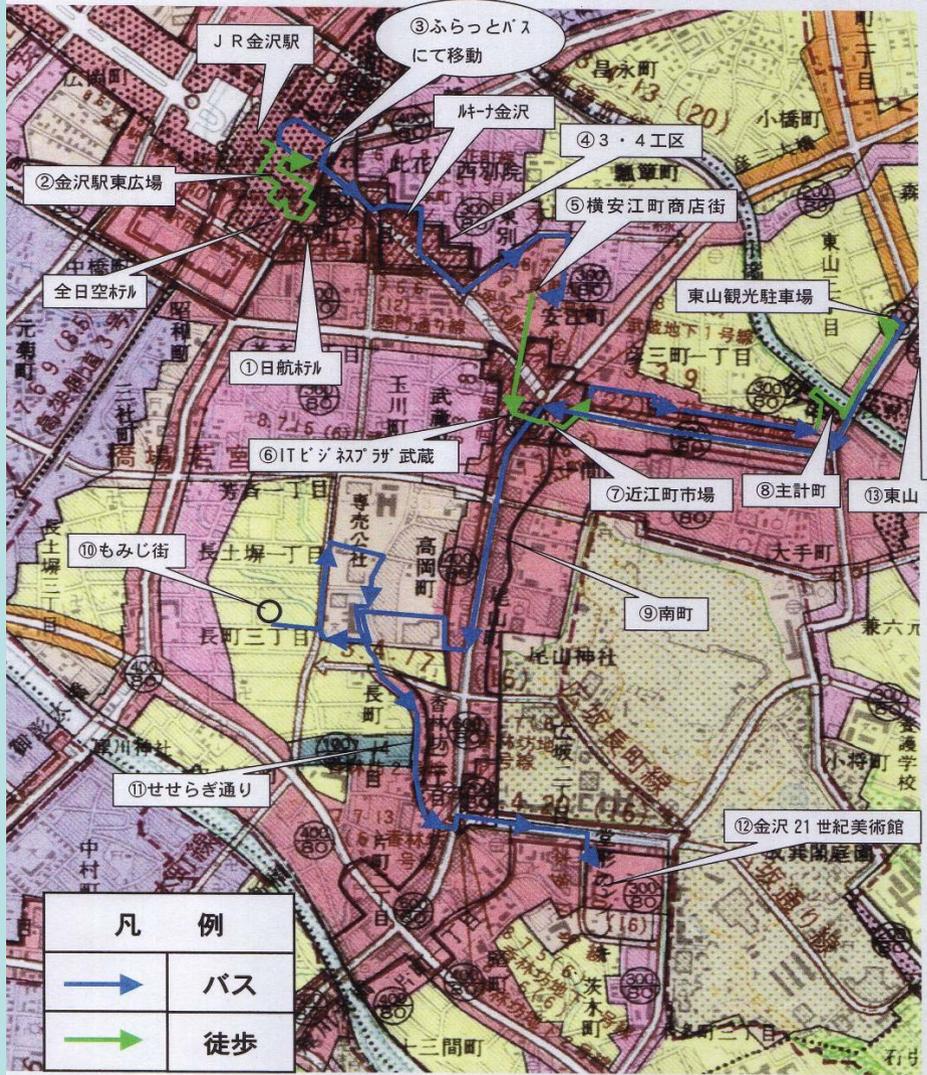
⑤環状道路の整備

- ・非戦災都市の道路の脆弱さに対して環状道路を戦略的に整備
- ・山側環状開通（平成18年4月）

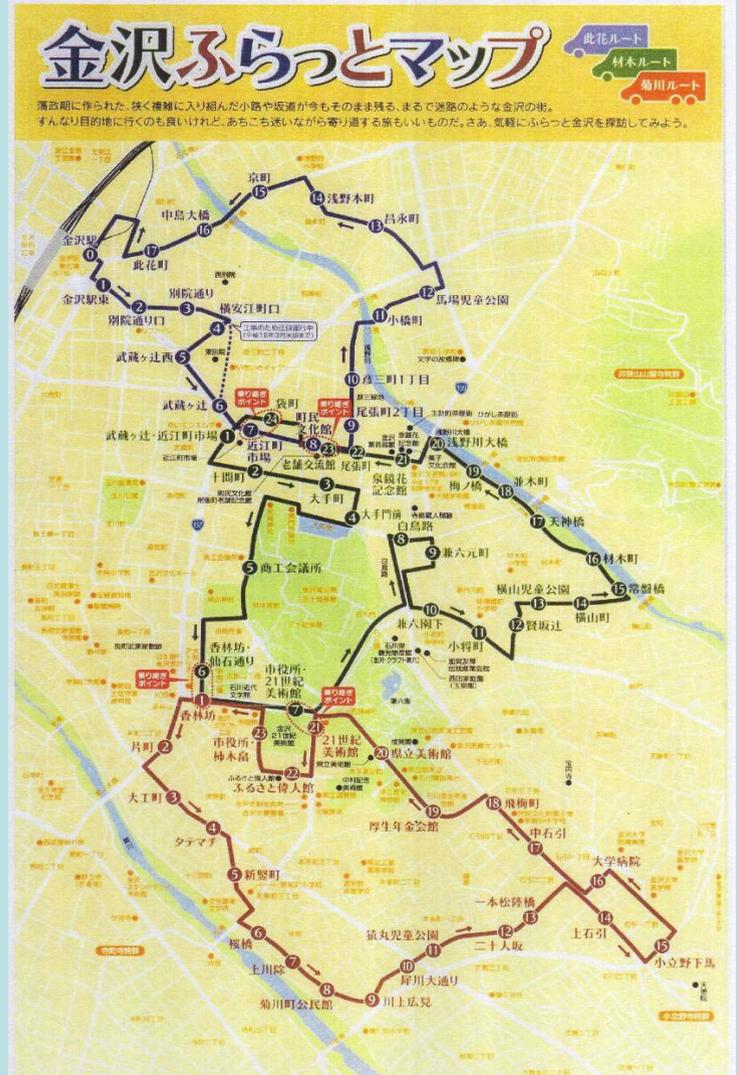
■視察箇所の概要(金沢市)

区分	視察箇所	概要
②まちなか都心軸	金沢駅東口広場	もてなしドーム、シンボルオブジェ、地下広場
	金沢駅前地区再開発 金沢駅武蔵北地区再開発	軸上に並ぶ再開発地区群
	近江町市場再開発計画地区	市場の雰囲気を残した再開発計画
	ITビジネスプラザ武蔵	既存ビルを活用したインキュベートオフィス
	21世紀美術館	都心軸の南端。斬新な建築デザイン、市民に開かれた美術館
③まちなか定住	もみじ街	市独自のまちなか住宅支援制度適用地区
④公共交通、歩けるまちづくり	金沢ふらっとバス(コミュニティバス)	15分ヘッド、一律100円の運賃。3ルートで運行。
	横安江町商店街	トランジットモール化。フリー乗降システム。
	主計町、ひがし茶屋街	伝建地区での歩行者空間修景、交通規制導入
	せせらぎ通り	用水を活かした散策空間整備
その他	都心軸裏側の土地利用	平面駐車場等の低利用地の蚕食状況

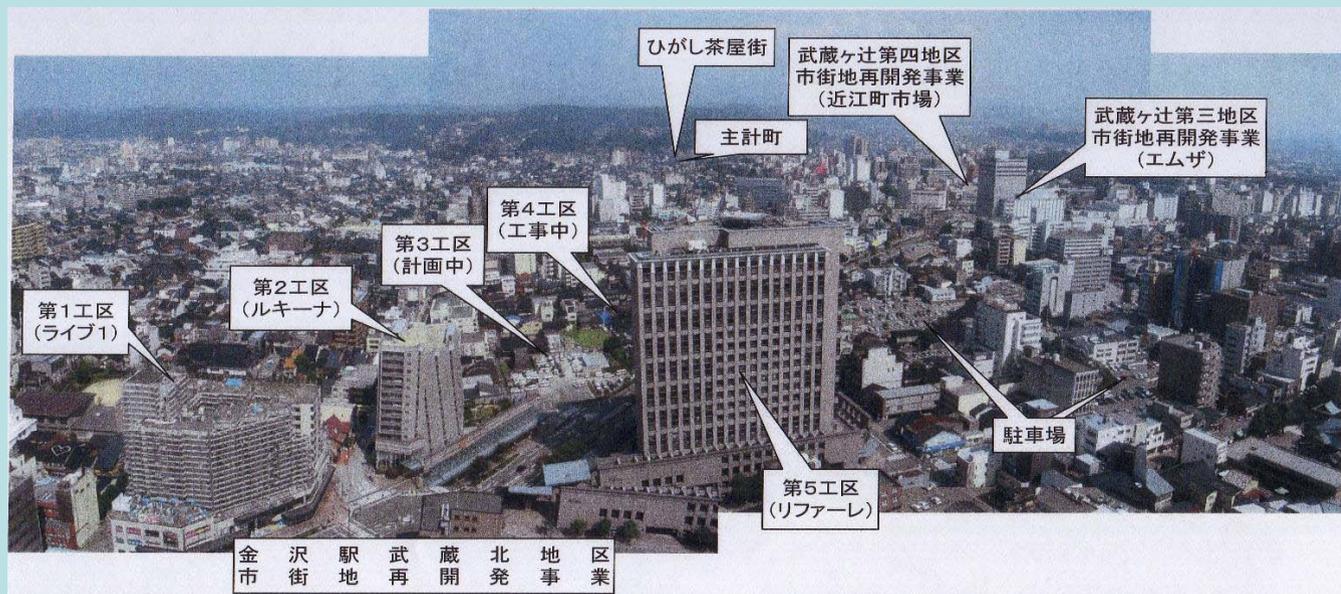
視察ルート



金沢ふらっとバス・ルート



都心軸沿いの再 開発地区群



都心軸に隣接する地区の蚕食的駐車場



整備された駅前広場



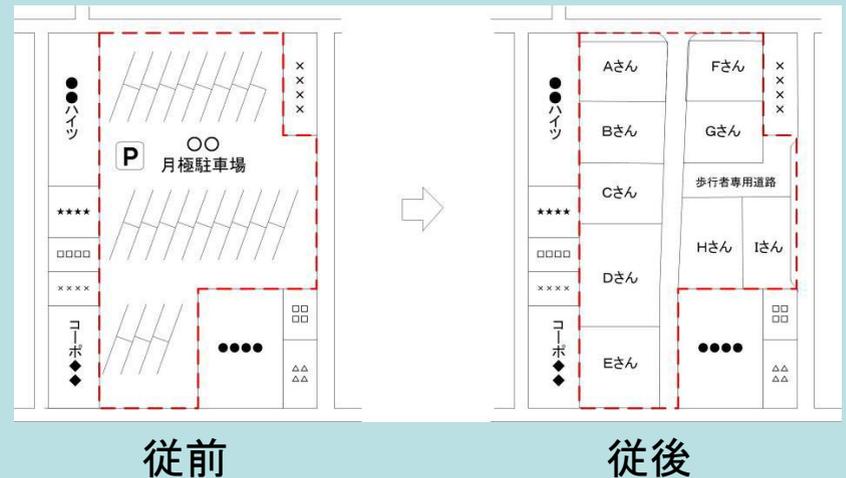
ふらっとバスのトランジットモール (横安江町)



歩けるまちづくり(主計町の地元との協 定に基づくみちづくり)



もみじ街の駐車場での戸建て住宅地開発(まちなか住宅団地整備費補助制度)



主要幹線道路網図

●基本形状

内・中・外の
3つの環状線

+

東西・南北の
放射幹線

山側環状開通
(本年4月)

直後の交通状況

森本→市内中心部は
約 2,200台
(11%) 減少

高尾→市内中心部は
約 600台
(3%) 減少

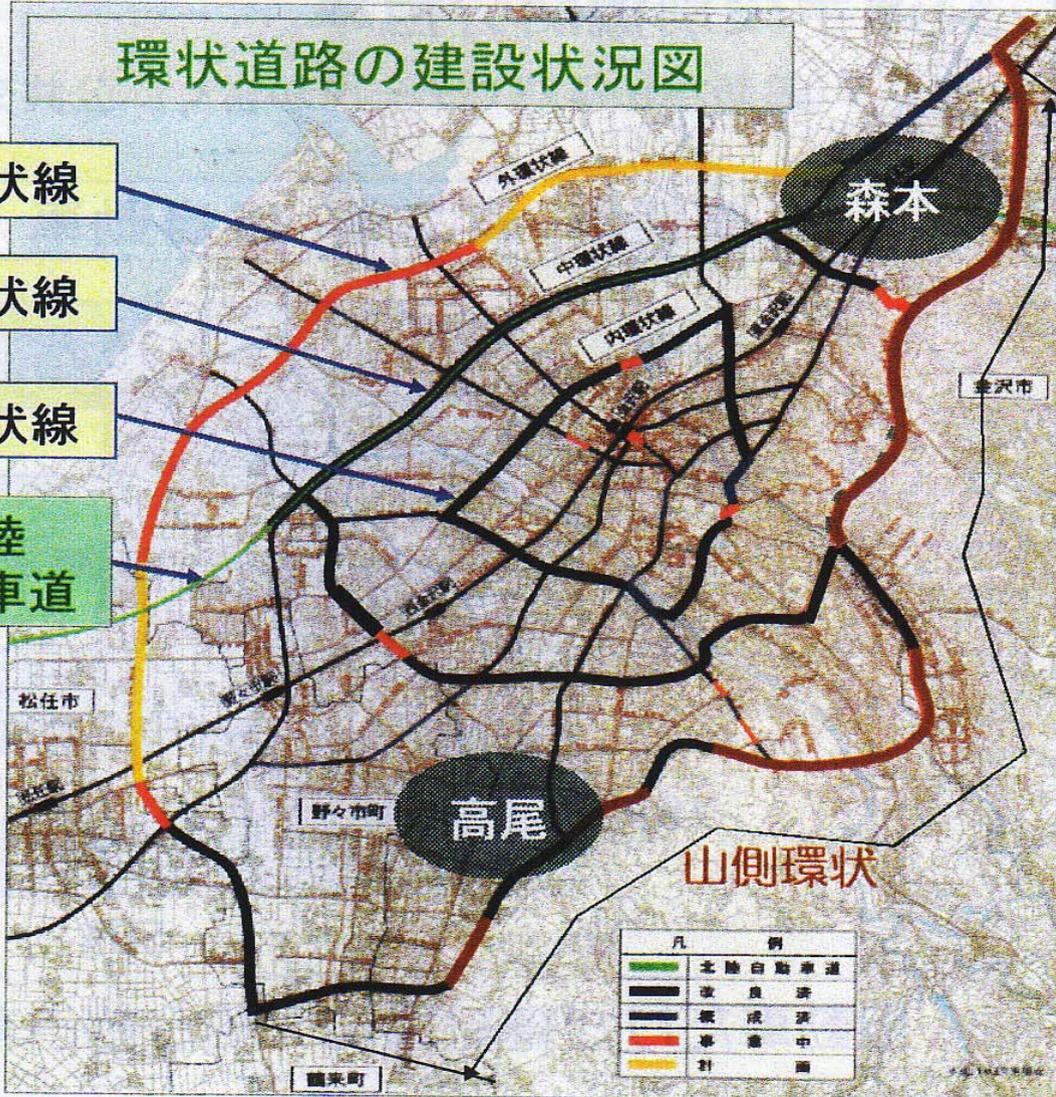
環状道路の建設状況図

外環状線

中環状線

内環状線

北陸
自動車道



山側環状

凡	例
— (Green)	北陸自動車道
— (Black)	国道16号
— (Red)	国道160号
— (Yellow)	計画

■まちづくりの成果と課題(金沢市)

様々なオリジナルなまちづくりの工夫により、文化性豊かでうるおいのあるまちづくりを実現。山側環状の開通による都心通過交通減の効果。その一方で、経済成長と保全関係、街なか居住やコミュニティ育成のあり方が課題。

①山側環状による都心通過交通減をまちづくりのチャンスと捉える

- ・マイカーに依存しない市民意識への改革

②港湾～県庁～金沢駅～香林坊の都心軸開発・経済開発の課題

- ・金沢駅から県庁・港湾にかけての延長が長く、開発戦略がみえにくい
- ・都心軸のひとかわ内側(アンコの市街地)で蚕食的に平面駐車場化

③街なか居住やコミュニティ育成の課題

- ・住宅規模へのニーズを踏まえるとかつてのような高密居住は困難。
- ・マンションではコミュニティ育成が困難。もみじ街のような戸建てを誘導する方策の充実が必要。

【地元出席者の意見等】

- ①まちづくりには国の税制、土地政策、都市計画の一貫性が必要。
- ②「公共交通は都市の装置」に基づく、公共交通のための財源確保が必要。
- ③老朽化した住宅や建物の更新、P&R駐車場用地確保等への支援が必要。

3. 富山市視察

■まちづくりの特徴

県庁所在都市の中でDID人口密度が最低という低密拡散の状態から集約型構造に転換するために、公共交通を軸としたまちづくりを推進。
最近では富山ライトレール(LRT)が開業し、沿線のまちづくりを推進。

①串とお団子による都市構造

- ・串(公共交通)とお団子(串で結ばれた徒歩圏)によるコンパクトな都市構造

②市民による選択を前提とした街なか居住への誘導

- ・今後の人口減少を踏まえ、都市計画等による郊外居住規制は行わない
- ・都心の魅力を高め、助成策による誘導により10年間で3千戸の住宅供給

③公共交通の活性化

- ・富山港線路面電車化事業(LRT)と沿線のまちづくり、フィーダーバス
- ・JR線高架化を契機にLRTと路面電車の南北直結と、都心部環状線の計画
- ・高齢者の外出支援(おでかけ定期券)、在来線高頻度運行、路線バス改善等

④活性化の拠点づくり

- ・富山駅周辺整備事業(連続立体交差化+土地区画整理事業)
- ・中心商業地区(総曲輪地区)の再開発(路面電車環状化区間沿線)

⑤大型店の郊外立地規制と中心市街地の低未利用地の活用

- ・まちづくり3法改正を契機とした郊外立地規制
- ・街なかのごま塩状に点在する駐車場の活用(街区マスタープランによる)

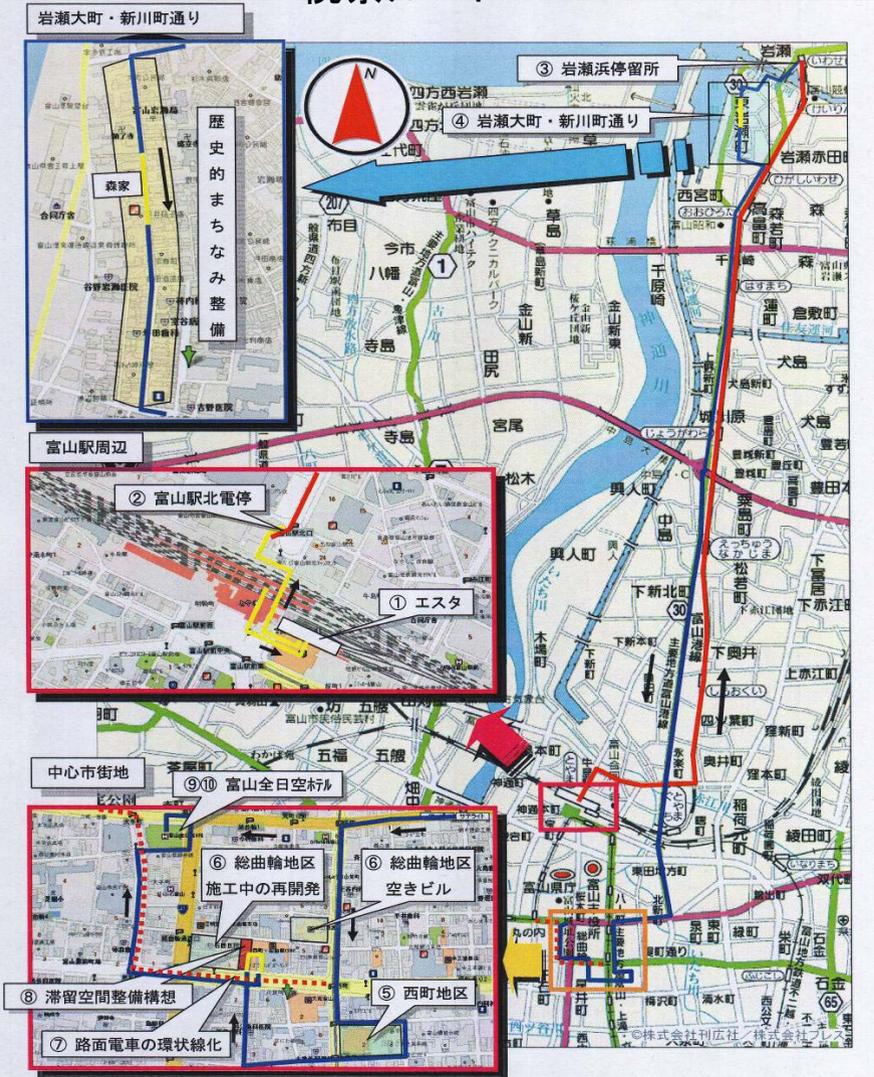
⑥市町村合併を踏まえた全市的な地域拠点の整備

- ・鉄軌道を中心とした公共交通幹線沿線に地域拠点を整備

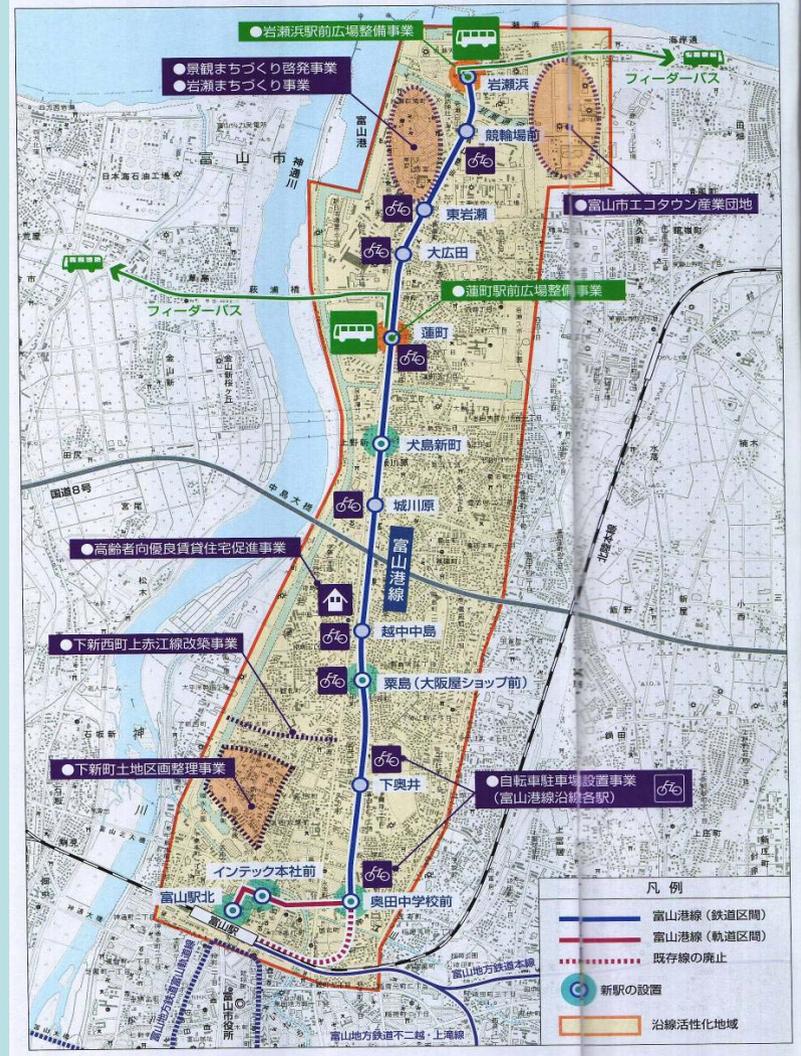
■ 視察箇所の概要(富山市)

区分	視察箇所	概要
③公共交通の活性化	富山ライトレール	旧JR富山港線のLRT化、サービスレベル向上、駅や駐輪場等の新設、フィーダーバス
	岩瀬地区	LRT岩瀬浜駅周辺。古い町並みの保全・改修助成
④活性化の拠点づくり	総曲輪通り南地区市街地再開発事業地区、 (仮称)グランドプラザ計画地	中心商業地区における新たな商業核の整備 屋根付き広場空間の整備計画 路面電車環状化構想
⑤大型店の郊外立地規制と中心市街地の低未利用地の活用	西町地区	幹線道路の基盤整備はできているが、街区内に平面駐車場等の低利用地がごま塩状に点在する市街地

視察ルート

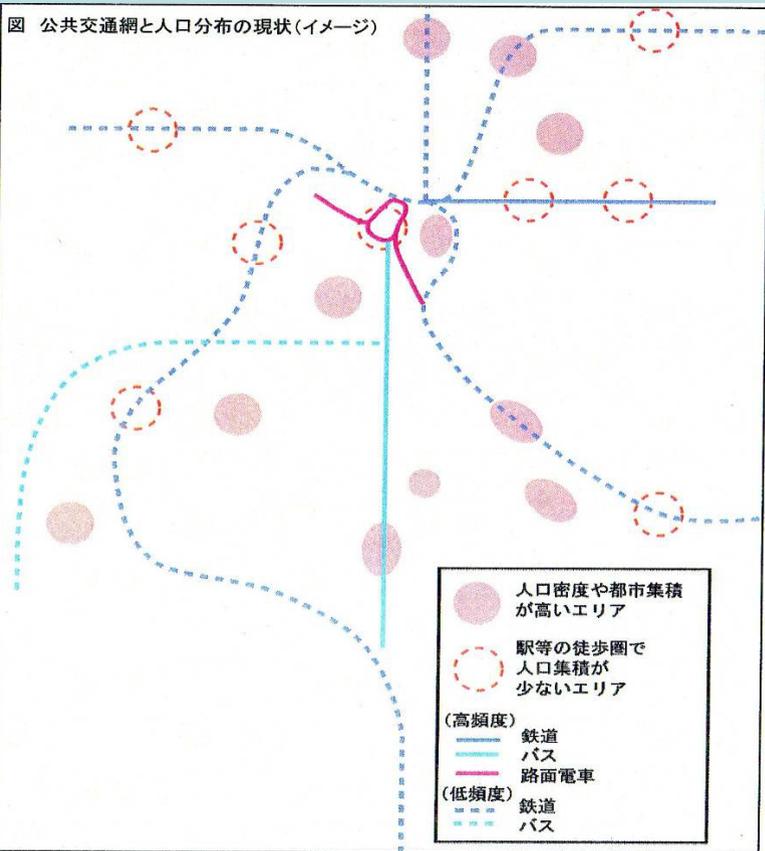


富山ライトレールと沿線まちづくり



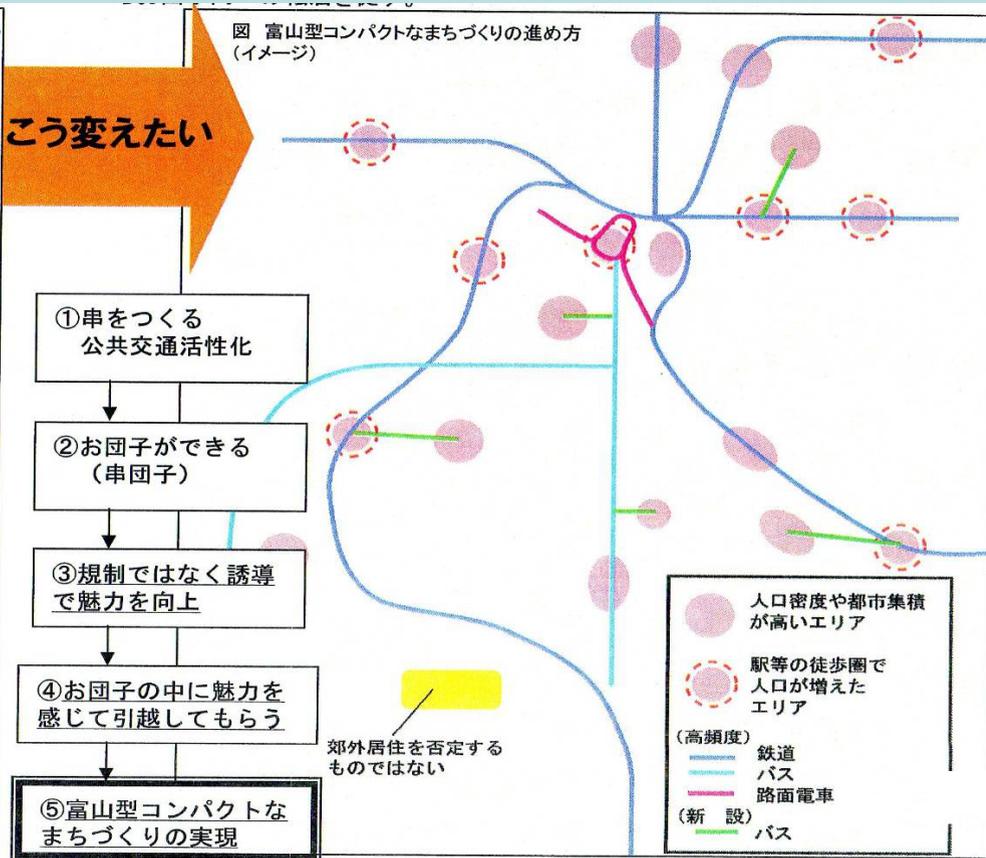
串とお団子によるコンパクトなまちづくり

図 公共交通網と人口分布の現状(イメージ)



こう変えたい

図 富山型コンパクトなまちづくりの進め方(イメージ)



富山駅北口(区画整理事業)

富山ライト
レール駅



駅のトータルデザイン (企業が広告で資金協力)



岩瀬駅のフィーダーバス

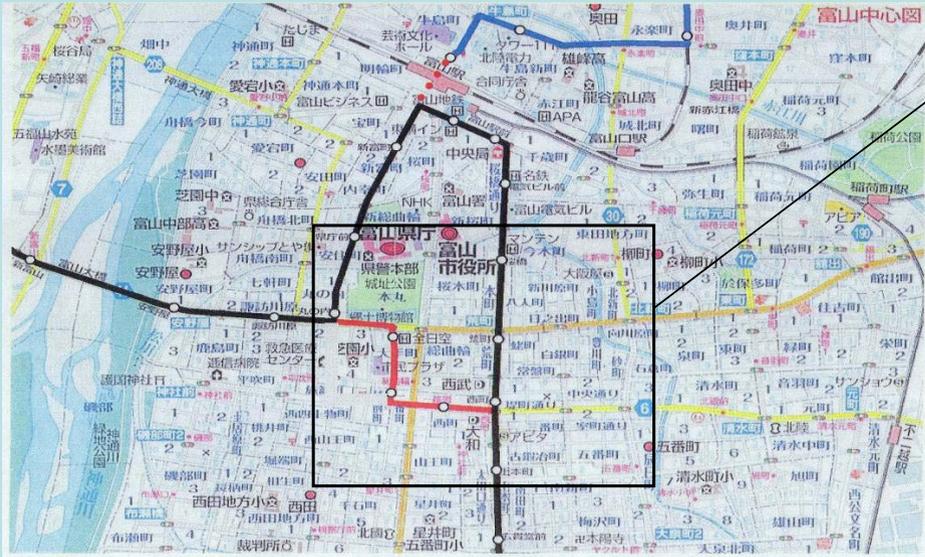


岩瀬地区の歴史的まちなみ



再開発による商業核の形成

路面電車の環状化計画



再開発ビル間のガレリア空間

ごま塩状の小規模駐車場



メインストリート沿いの空地



再開発事業(新たな商業核)



再開発ビル間のギャラリー空間予定地



■まちづくりの成果と課題(富山市)

低密な市街地を前提としつつ集約型都市構造に向かうモデルとして注目される。LRT等の整備や沿線まちづくりに対する市民や企業の合意と協力をとりつけながら、先進的な事業に取り組んでいる。
今後は路面電車整備や再開発に並行して、街なか居住促進、ごま塩状駐車場を含む街区の再編等が課題

①コンパクトな都市づくりに対する市民・企業の合意と協力のとりつけ

- ・公共交通沿線に集まって住むことに対する市民のゆるやかな合意は形成
- ・積極的な協力としては市民や企業による富山ライトレールへの資金支援

②街なか居住促進

- ・持ち家意識が高く、郊外から街なかへの買い換えに限界
- ・子育て世代の郊外居住指向は強く、高齢者、交通弱者の街なか誘導が重要
- ・郊外の家を市が借り上げて転貸する制度を検討中(民間不動産業者と協力)
- ・歴史的地区等の空家活用(保全・修復、住宅利用等)が必要

③ごま塩状市街地や空閑地での街区再編

- ・街区単位での敷地整序型の区画整理等の活用検討が必要
- ・小学校統廃合跡地等の活用が必要

【地元出席者の意見等】

- ①富山ライトレールについては、市民や地元企業からの支援が大きな成功要因
- ②コンパクトなまちづくりについては、タウンミーティングなどで市民への説明を重ねており、概ね全体として賛同は得られている
- ③ごま塩状市街地の解消は大きな課題で、使いやすい制度の検討が必要